



TITLE:

表紙・原稿作成要領・編集後記・
裏表紙ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・原稿作成要領・編集後記・裏表紙ほか. 物性研究 1992, 59(2)

ISSUE DATE:

1992-11-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/94979>

RIGHT:

昭和42年11月14日 第四種郵便物認可
平成4年11月20日発行(毎月1回20日発行)
物性研究 第59巻 第2号

ISSN 0525-2997

vol.59 no.2

物性研究

1992/11

1. 本誌は、物性の研究を共同で促進するため、研究者がその研究・意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、特別寄稿、研究に関連した諸問題についての意見などです。
2. 本誌に投稿された論文については、原則として審査は行ないません。但し、編集委員会で本誌への掲載が不相当と判断された場合には、改訂を求めること、または掲載をお断りすることがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上で、**private communication** 扱いにして下さい。

原稿作成要領

1. 原稿は2部（オリジナル原稿及びコピー）提出して下さい。
2. 別刷ご希望の方は、投稿の際に50部以上10部単位で、必要部数、別刷送付先、請求先を明記の上、お申し込み下さい。
3. **ワープロ原稿の場合**
ワープロ原稿を歓迎します。原則として写真製版でそのまま印刷されますので、以下の点に注意して原稿を作成して下さい。（特に希望される場合には、こちらでタイプし直すことも可能ですが、経費の節約のため、できるだけ写真製版できる原稿をお願いします。）
 - 1) 用紙はB5またはA4を縦に使用。（印刷はB5になります。）
 - 2) マージンはB5で、上下あわせて約4.5cm、左右あわせて約4cm。
 - 3) 1ページに本文34行、1行に全角文字で42字。
 - 4) 第1ページは、タイトルはセンタリング、所属・氏名は右寄せにして、余白を十分にとって下さい。
 - 5) 図や表は、本文中の適当な箇所に貼り込み、図の下にキャプションを付けて下さい。
 - 6) 体裁については、上記は一応の目安ですので、多少の違いがあってもかまいません。
4. **手書き原稿の場合**
 - 1) 原稿は400字詰原稿用紙に丁寧に書いて下さい。
 - 2) 数式は大きく明瞭に書き、1行におさまらない場合の改行箇所を赤で指定して下さい。
 - 3) 数式、記号の書き方は、Progress, Journal の投稿規定に準じ、立体（□）、イタリック（*—*）、ゴシック（**—**）、ギリシャ文字（ γ ）、花文字、大文字、小文字などを赤で指定して下さい。本誌は立体を基本としてタイプされますので、式にも必ず、イタリック、立体を指示して下さい。また、著者校正はありませんので、特に区別しにくいcとe、eとl、vとu、uとn、l（エル）と1（イチ）、O（オー）と0（ゼロ）、x（エックス）と \times （カケル）、†（ダガー）と+（プラス）、 ψ と ϕ と Ψ と Φ なども赤で指定して下さい。
 - 4) 図は写真製版できるもの（こちらではトレースはいたしません。）を図の説明と共に論文末尾に揃え、図を入れるべき位置を本文の欄外に赤で指定して下さい。

1. 本誌は、物性の研究を共同で促進するため、研究者がその研究・意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、特別寄稿、研究に関連した諸問題についての意見などです。
2. 本誌に投稿された論文については、原則として審査は行ないません。但し、編集委員会で本誌への掲載が不相当と判断された場合には、改訂を求めること、または掲載をお断りすることがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上で、**private communication** 扱いにして下さい。

原稿作成要領

1. 原稿は2部（オリジナル原稿及びコピー）提出して下さい。
2. 別刷ご希望の方は、投稿の際に50部以上10部単位で、必要部数、別刷送付先、請求先を明記の上、お申し込み下さい。
3. **ワープロ原稿の場合**
ワープロ原稿を歓迎します。原則として写真製版でそのまま印刷されますので、以下の点に注意して原稿を作成して下さい。（特に希望される場合には、こちらでタイプし直すことも可能ですが、経費の節約のため、できるだけ写真製版できる原稿をお願いします。）
 - 1) 用紙はB5またはA4を縦に使用。（印刷はB5になります。）
 - 2) マージンはB5で、上下あわせて約4.5cm、左右あわせて約4cm。
 - 3) 1ページに本文34行、1行に全角文字で42字。
 - 4) 第1ページは、タイトルはセンタリング、所属・氏名は右寄せにして、余白を十分にとって下さい。
 - 5) 図や表は、本文中の適当な箇所に貼り込み、図の下にキャプションを付けて下さい。
 - 6) 体裁については、上記は一応の目安ですので、多少の違いがあってもかまいません。
4. **手書き原稿の場合**
 - 1) 原稿は400字詰原稿用紙に丁寧に書いて下さい。
 - 2) 数式は大きく明瞭に書き、1行におさまらない場合の改行箇所を赤で指定して下さい。
 - 3) 数式、記号の書き方は、Progress, Journal の投稿規定に準じ、立体（□）、イタリック（*—*）、ゴシック（**—**）、ギリシャ文字（ γ ）、花文字、大文字、小文字などを赤で指定して下さい。本誌は立体を基本としてタイプされますので、式にも必ず、イタリック、立体を指示して下さい。また、著者校正はありませんので、特に区別しにくいcとe、eとl、vとu、uとn、l（エル）と1（イチ）、O（オー）と0（ゼロ）、x（エックス）と \times （カケル）、†（ダガー）と+（プラス）、 ψ と ϕ と Ψ と Φ なども赤で指定して下さい。
 - 4) 図は写真製版できるもの（こちらではトレースはいたしません。）を図の説明と共に論文末尾に揃え、図を入れるべき位置を本文の欄外に赤で指定して下さい。

編集後記

本誌は大変古い伝統を持っている。「物性論研究」と呼ばれた時代も含めると、かれこれ半世紀近くにもなる。細々とではあるが、ともかくよくぞここまでと感心する。こんにち、他の多くの手段によって容易に得ることのできる通常の学術情報をあえて本誌に求める人はまずいない。しかし、あり余る情報に囲まれながら、ほとんどは等質の情報であって、本当にそれで人々が満足しているかとなると大いに疑問である。読者が潜在的に求めながらも容易に与えられないような種類の情報があるのではないか。それを的確に見だし、本誌の最大のメリットであるところのふだん着姿の気安さを百パーセント生かして、そうした情報を読者に提供し続けることが最も重要だと思う。それ以外に、本誌のようなあらゆる面で地味な雑誌が今後生き残れる可能性はまず無いだろう。要するに、他誌が真似できないやりかたで、一風変わった、しかし潜在的需要度の高い学術情報を提供するという点に本誌の存在意義を見いだしていくべきだと考えている。

このような方向への努力の一環として、編集会議で最近ひそかに練られている一つの計画がある。近々本誌に正式にアナウンスされるであろうが、それは本誌に掲載されるすべての論文、研究会報告、講義録などに対して読者からの自由なコメント（質問、批判、賞賛、その他何でも）を募り、それを載せる特別の欄を設けるというものである。もちろん、このような欄を設けたからといって、すぐさま多くのコメントが寄せられるほど事態は甘くないだろう。軌道に乗るまでは編集委員による積極的な働きかけが不可欠であろう。自分の研究にいろいろコメントして欲しい人はぜひ投稿されることをお勧めする。コメントされるのはいやだが、人の仕事に口出しするのは好きだという方も大歓迎である。もちろんコメントに対する反論、再反論の機会は充分にあたえられる。編集部の役目はそれが不毛な議論にならないようにコントロールしたり、固定客に占有されないようにすることだけである。議論にはいっさい参加しないが見物するのが趣味という人も多いだろう。自分の専門から遠くても、他人の論争には興味をそそられるものである。そういう人の関心を本誌が引き付けられればしめたものである。読者の絶大なご支援をお願いするしだいである。もっとも、われわれの計画は計画倒れに終わるかも知れない。しかしこうした試みへの懲りない挑戦を読者は今後も寛容をもって見守っていただけると信ずる。

(Y. K)

物 性 研 究 第 59 卷第 2 号 (平成 4 年 11 月号) 1992 年 11 月 20 日 発行

発行人	池 田 研 介	〒 606-01	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
印刷所	昭 和 堂 印 刷 所	〒 606	京都市百万辺交叉点上ル東側 TEL (075) 721-4541~3
発行所	物性研究刊行会	〒 606-01	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
年額	19,200 円		

編集後記

本誌は大変古い伝統を持っている。「物性論研究」と呼ばれた時代も含めると、かれこれ半世紀近くにもなる。細々とではあるが、ともかくよくぞここまでと感心する。こんにち、他の多くの手段によって容易に得ることのできる通常の学術情報をあえて本誌に求める人はまずいない。しかし、あり余る情報に囲まれながら、ほとんどは等質の情報であって、本当にそれで人々が満足しているかとなると大いに疑問である。読者が潜在的に求めながらも容易に与えられないような種類の情報があるのではないか。それを的確に見だし、本誌の最大のメリットであるところのふだん着姿の気安さを百パーセント生かして、そうした情報を読者に提供し続けることが最も重要だと思う。それ以外に、本誌のようなあらゆる面で地味な雑誌が今後生き残れる可能性はまず無いだろう。要するに、他誌が真似できないやりかたで、一風変わった、しかし潜在的需要度の高い学術情報を提供するという点に本誌の存在意義を見いだしていくべきだと考えている。

このような方向への努力の一環として、編集会議で最近ひそかに練られている一つの計画がある。近々本誌に正式にアナウンスされるであろうが、それは本誌に掲載されるすべての論文、研究会報告、講義録などに対して読者からの自由なコメント（質問、批判、賞賛、その他何でも）を募り、それを載せる特別の欄を設けるというものである。もちろん、このような欄を設けたからといって、すぐさま多くのコメントが寄せられるほど事態は甘くないだろう。軌道に乗るまでは編集委員による積極的な働きかけが不可欠であろう。自分の研究にいろいろコメントして欲しい人はぜひ投稿されることをお勧めする。コメントされるのはいやだが、人の仕事に口出しするのは好きだという方も大歓迎である。もちろんコメントに対する反論、再反論の機会は充分にあたえられる。編集部の役目はそれが不毛な議論にならないようにコントロールしたり、固定客に占有されないようにすることだけである。議論にはいっさい参加しないが見物するのが趣味という人も多いだろう。自分の専門から遠くても、他人の論争には興味をそそられるものである。そういう人の関心を本誌が引き付けられればしめたものである。読者の絶大なご支援をお願いするしだいである。もっとも、われわれの計画は計画倒れに終わるかも知れない。しかしこうした試みへの懲りない挑戦を読者は今後も寛容をもって見守っていただけると信ずる。

(Y. K)

物 性 研 究 第 59 卷第 2 号 (平成 4 年 11 月号) 1992 年 11 月 20 日 発行

発行人	池 田 研 介	〒 606-01	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
印刷所	昭 和 堂 印 刷 所	〒 606	京都市百万辺交叉点上ル東側 TEL (075) 721-4541~3
発行所	物性研究刊行会	〒 606-01	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
年額	19,200 円		

会員規定

個人会員

1. 会 費：

当会の会費は前納制になっています。したがって、3月末までに次年度分の会費をお支払い下さい。

年会費	1st Volume (4月号～9月号)	4,800円
	2nd Volume (10月号～3月号)	4,800円
		計 9,600円

お支払いは、郵便振替でお願いします。当会専用の振替用紙がありますので、下記までご請求下さい。郵便局の用紙でも結構です。通信欄に送金内容を必ず明記して下さい。

郵便振替口座 京都1—5312

2. 送本中止の場合：

送本の中止は Volume の切れ目しかできません。次の Volume より送本中止を希望される場合、できるだけ早めに「退会届」を送付して下さい。中止の連絡のない限り、送本は継続されますのでご注意ください。

3. 送本先変更の場合：

住所、勤務先の変更などにより、送本先が変わる場合は、必ず送本先変更届を送付して下さい。

4. 会費滞納の場合：

正当な理由なく 2 Volumes 以上の会費を滞納された場合は、送本を停止することがありますので、ご留意下さい。

機関会員

1. 会 費：

学校、研究所等の入会、及び個人でも公費払いのときは機関会員とみなし、**年会費19,200円**(1 Volume 9,600円)です。学校、研究所の会費の支払いは、後払いでも結構です。申し込み時に、支払いに書類(請求、見積、納品書)が各何通必要かをお知らせ下さい。当会の請求書類で支払いができない場合は、貴校、貴研究所の請求書類をご送付下さい。

2. 送本中止の場合：

送本の中止は Volume の切れ目しかできません。次の Volume より送本中止を希望される場合、できるだけ早めにご連絡下さい。中止の連絡のない限り、送本は継続されますのでご注意ください。

雑誌未着の場合：発行日より6ヶ月以内に当会までご連絡下さい。

物性研究刊行会

〒606 京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内

電話 (075)753-7051, 722-3540

FAX (075)722-6339

物 性 研 究 59—2 (11月号) 目 次

○特別寄稿

「生物をデザインする 一二足歩行運動の神経筋骨格系モデル」

.....多賀 巖太郎、山口 陽子、清水 博.....125

○研究会報告

「非平衡系の統計物理」(その2)154

○編集後記.....234

物 性 研 究 59—2 (11月号) 目 次

○特別寄稿

「生物をデザインする 一二足歩行運動の神経筋骨格系モデル」

.....多賀 巖太郎、山口 陽子、清水 博.....125

○研究会報告

「非平衡系の統計物理」(その2)154

○編集後記.....234